

No.3 「嫌気性菌について」の巻



嫌気性菌とは？

嫌気性菌とは発育に酸素を必要としない細菌です。酸素存在下でも発育できる**通性嫌気性菌**と、大気レベルの酸素濃度で死滅してしまう**偏性嫌気性菌**に分類されます。通常、**嫌気性菌**は**偏性嫌気性菌**のことを示します。

嫌気培養検査について

嫌気性菌感染症を疑う検体は、嫌気ポーターなどの嫌気性輸送用容器を使用します。すぐに培養できない場合は、冷蔵にて保存します。血液検体は嫌気ボトルを使用します（室温保存）。嫌気性菌は通常の一般細菌（大腸菌、ブドウ球菌など）と違い酸化還元電位の低い環境（-200mV以下）でのみ発育します。培地も専用のもので使用しています。嫌気状態で1週間培養します。

嫌気性菌の検体別分離頻度（2014年3月～2018年3月）

検体別分離頻度

血液（5%）	胆汁（9.4%）	関節液（0.6%）	胸水（42.6%）
腹水（64.1%）	髄液（3%）	穿刺液（75%）	

菌種内訳

<i>Bacteroides</i> 属（33.2%）	<i>Peptostreptococcus</i> 属（19.6%）
<i>Prevotella</i> 属（13.6%）	<i>Propionibacterium</i> 属（10.3%）
<i>Clostridium</i> 属（9.3%）	<i>Fusobacterium</i> 属（7.5%）

薬剤耐性率（*Bacteroides fragilis* group）

PCG（100%）	AMPC（100%）	CMZ（63.6%）
CZX（90%）	CLDM（40%）	

参考文献：Tsuyuki Y: J Vet Med Sci doi: 10.1292/jvms.20-0294.